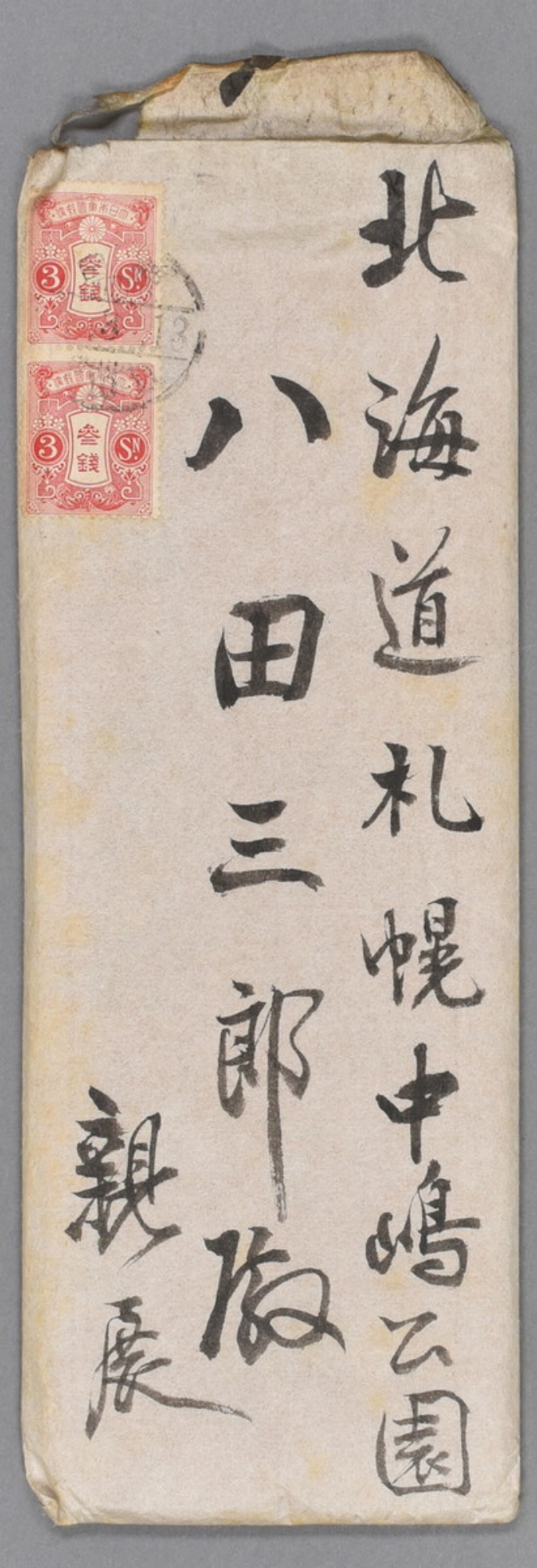
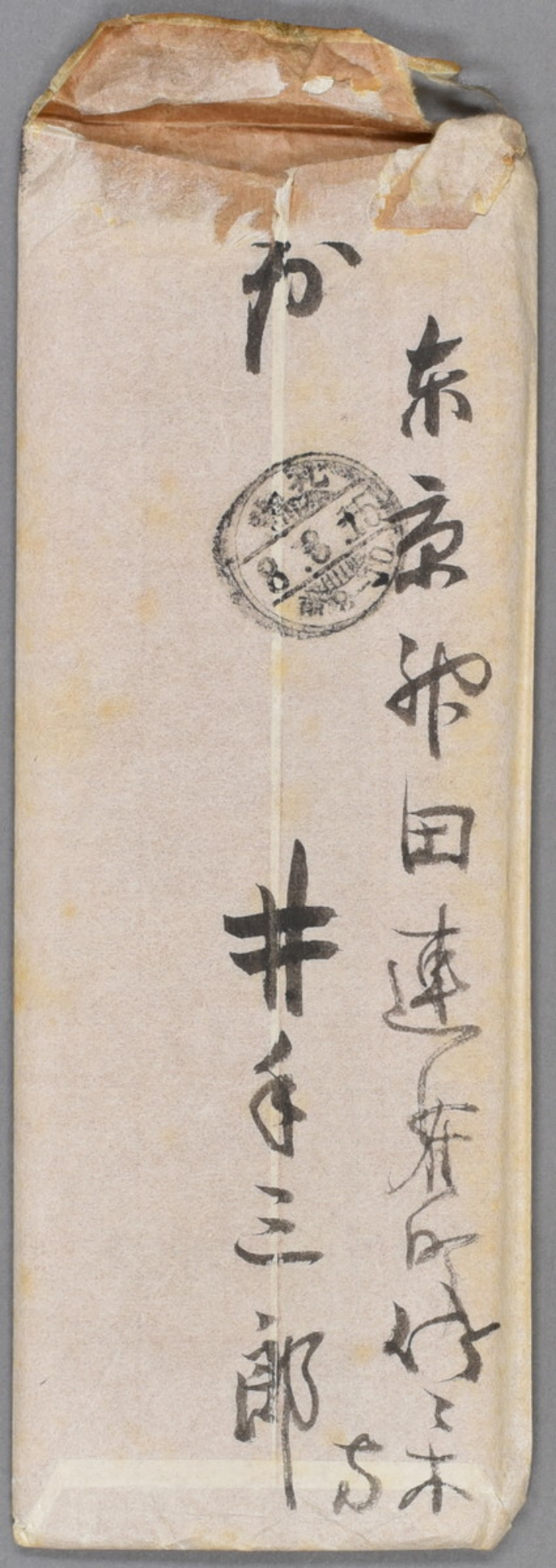


北海道札幌中嶋工園

八田三郎殿

親展



東京市田連雀町六六
井手三郎

相談申上候〻吉川
より別紙〻詳報
ありし賢兄へ御報
ありたく申上候〻
ことは
の通し申上
なり城立方望を
関西で万一
東都〻氣勢の節
この中紙幣の地たらん
大阪〻相てのを

関西にて大[illegible]
東都に氣勢の昂り
うゆ 紫花の地たるべき
大阪に於ての業績を
所しらるること全力を傾
注せよと申向て発
三十万二十万婦女(新陸)
級動めしの西帰直に再
上京しなん少生に言ふ
必ずしも老力にて順に選び
なすべしと
三月さて 井上お
八田たり

あと其仕事〳〵一生涯
忘れぬ茶番さ申訳し
仕て居ります昨夜仕舞山に参り
ました風邪にて失礼しました
に付御詫との始末御経過
二月末東京より岡部子爵
濱田（是も西家の使役）参り差出
今の一條となる三月二日左京亮に
決行仍は其の侍家を始め家が先
祖代人目を其なれ
村山方には第二位迄者なし
一応其氏より申れたる問題
にもせずしとかい十二岡部の方
出みまいる口を拭いた出
侍後一位は出ずれも出
は朝の後法の君に出の一家を取
りしも村山の腰立たず岡部

倭俗一俗に非ずして也最初我
は朝の倭俗の君に対の一策を取
りしも村山の腰立たず国家の
方世俗(安達も無らんに)
多く上は知に慈善事業を行
ひたる留り仏の利益に生ぜん
心義は行はに変なるまーなしと
彼に不一村山の腰を立
たすべく今日に極力勧めんが
保其の時に帝も来て今日はと
反ぜみれに不一其時帝来たれ
和者は報恩の為吟味とやすは
拙知恥の今日が憚くなつて解器
一度と同じく禁止を以て奇か
さん日一度日を所朝に仏教
経便を義とする命と濃に世間仏
人に過激を義は世に性を
すべきを化せず四年に小説
おは高意人根性を発揮して

種便宜義とのこと何と淺ましき世の仔
人に過激と義は世をも世を成
すべきことなせば四年に小説家
おさは高き人柄性を発揮して
りり旦朝日の内部も新聞
四方の評判悪しく其の四後一末
の文わるにわるきこと
寧ろ新興の家庭とかく一大劇界必要
なるべく角で国家でも一家でも
大家の仕くはいと通りたい倩
計画一件仔細大事業に
言相家に成功を為すは悲観
に陥さ安らかが勝本が二三方
面に考へた結果は案外に
さんを中心にしてならば賛助
を申出づるもの又官僚を
怪りながら医者べと十名の勝
本に寧ろ二言ずつとして

[illegible]を中心として[illegible]
を中出づるまで又官僚を
悔りながら医者べと十名ち際
本に寄ろうとすると水郎は
四面楚歌の中に力味、目下内に種
めて大十名に異様的姿を
受くる所に其の上に歩を進
め金表面にまつ出る高金
遠遠なるもの小さかれめを
気運は有之殺有りやたかを
人四の高ぶる者は表のしの一十たいが議
今に終りに近づきたる今井嘉
幸や未永一三に肩を入れ之
未だ集合に出来ないが勝
本猛進仕る或人とやや
[illegible]
と云ふ人四の多村小寺甚
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]植木屋が[illegible]拾円三百円、

全丈夫に暮れるとしても近頃[illegible]

[illegible]仕事やら人間[illegible]

[illegible]丈夫に[illegible]

大[illegible]花見[illegible]

[illegible]大[illegible]

[illegible]月十一日

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

北海道札幌中島公園

八田三郎

[illegible]